

あけましておめでとうございます。

2019年の幕開け、平成31年は4月までで、5月からは新しい年号となります。

さて、今年は亥年、「いのしし神社」と呼ばれている京都の護王神社をご存知でしょうか？

京都御所の西側、烏丸通沿いにある神社で烏居の横には狛犬の代わりに狛イノシシが鎮座しています。平安京の建都に貢献した和氣清麻呂が主祭神です。清麻呂は、道鏡事件で大隅国（今の鹿児島県）へ流される時、足が萎えて立つこともできませんでしたが、いのししのご守護によって不思議と立って歩けるようになったという故事に因み、足腰の守護神と仰がれています。

京都に住んでいる頃、京都御所を散歩した後で、護王神社に立ち寄ってコーヒーを飲んでしばし休憩しました。ここの水出しコーヒーは美味しいですよ。

今年が良い年でありますように。



【最近目立つ病気】

感染性胃腸炎が流行しています。この季節はノロウイルス胃腸炎が多いのですが、保健適応のある3才未満の乳幼児の便で検査しても陽性者は少ないようです。

溶連菌感染症やアデノウイルス感染症（咽頭炎）も目立ちます。

水痘も一部で流行しています。ワクチン接種されている場合は典型的な水疱を形成しないため診断が難しくなっています。2回接種されている方でも罹ることがありますので注意が必要です。

インフルエンザがちらほら見られています。主にA型ですが、一部ではB型もみられています。冬休みに入って鎮静化すると思いますが、人込みではマスクをして、外出から帰ったら、手洗いやうがいを行ってください。

【妊婦加算は中止】

根本匠厚労相は12月19日、中央社会保険医療協議会（中医協）総会に対し、2018年度診療報酬改定で新設された「妊婦加算」を2019年1月1日から「大臣の定める日まで」凍結することを諮問しました。中医協総会は「加算の趣旨・内容が国民に十分に理解されず、妊婦やその家族へ誤解と不安を与え、その結果として、算定凍結の措置を講じるに至ったことはやむを得ないこととは言え、誠に遺憾」と付した上で、答申しました。

答申書では、改定についての調査・検証を行う前に、凍結という諮問が行われたことは「極めて異例なことと言わざるを得ない」としたものの、妊婦加算についての誤解と不安がある現状では、当初の妊婦加算の意図の実現が十分に期待できないと判断し、「今回の措置は特別な事情に基づき実施するものであり、エビデンスと検証を踏まえて対応するという、これまでの診療報酬改定の基本的な考え方を変更するものではない」としています。

厚労省は今後、妊婦が安心できる医療提供体制の充実等を議論するための有識者検討会を設ける方針です。中医協ではその議論を踏まえ、改め

て妊婦加算の在り方を議論することになります。厚労省保険局医療課長の森光敬子氏は、どのような場で、どんな議論をするかはこれから検討するとしており、2020年度改定までの凍結となる見通しです。

【伝染性紅斑】

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルス B19 による感染症です。感染経路は飛沫または接触感染です。小児では頬がリンゴのように赤くなることから、リンゴ病としてよく知られています。

昨年秋から例年と比べて患者数が増加しており、今後2015年以来の大きな流行となることが予想されます。これまでも概ね数年おきに流行がみられています。流行はその地域の感受性者の集積状況とも関連すると考えられ、実際、全国とその地域とで流行年や季節性に若干の相違が生じることもあります。

リンゴ病自体は、頬が赤くなることを最大の特徴とする予後良好な感染性疾患です。四肢を中心として特徴的な紅斑を呈することもあります。しかしヒトパルボウイルス B19 は、神経（脳炎、脊髄炎、末梢神経痛）、循環器（心筋炎、房室ブロック）、造血器（溶血性貧血）、運動器（関節炎）、妊婦の場合には胎児（胎児貧血、胎児水腫）等々、各臓器に対して侵襲性の影響を及ぼすこともあるウイルスです。臨床症状・所見は年齢と関係しており、成人では典型的なリンゴ病の症状よりも、発熱、関節痛、四肢中心の皮疹、頭痛のほか、貧血など造血器系への影響が前面に出ることが少なくありません。皮疹は、いったん収まった後でも日光への曝露によって再燃や遷延することがしばしば経験されます。また、不顕性感染の頻度が高いとされています。

頬に発疹が出現する1週間～10日ほど前に、前駆症状として感冒様症状がみられることがあります。この時期にウイルス血症を起しており、ウイルスの排泄量が最大になります。特徴的な発疹を呈した時点ではウイルスの排泄はほとんどなく、感染性は失われていると考えられ、出席停止の対象にはなりません。

妊娠中に伝染性紅斑に罹患した場合に、胎児に影響が及ぶ場合があります。患児の母親が妊婦であった場合には、念のため注意を喚起しますが、母親の罹患歴の把握は困難であり、予防法もなく、すでに感染性のある時期は過ぎていること、さらには胎児に影響するリスク自体は高くないので、心配しすぎることはよくありません。抗体検査で感受性の有無を確認すること、自身の症状の推移に注意すること、産科の主治医とよく相談して胎児エコーを励行していただくことなどをお勧めします。

おしらせ



☆西念の駅西福祉健康センター内の金沢広域急病センター（Tel:222-0099）では午後7時30分から11時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は、1/2・2/10の予定です。なお、3月17日は当番医です。

☆金沢市では乳幼児の任意接種のワクチン（ロタウイルス・おたふくかぜ・インフルエンザ・B型肝炎）についての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆インフルエンザワクチン接種は在庫切れで中断しています。入荷があり次第再開の予定です。なお、当院で2回目の指示を受けた方は受付でお尋ねください。

☆世界の宝「憲法9条」を次の世代に贈りましょう。

